



2026年3月期 決算説明会資料

2026年6月3日

証券コード：4022

目 次

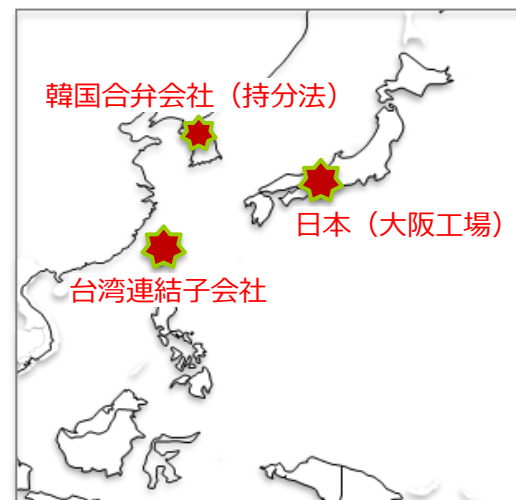
- 1. 事業概要**
- 2. 2026年3月期実績及び2027年3月期見通し**
- 3. 中期経営計画2026の進捗状況**

1. 事業概要

事業概要

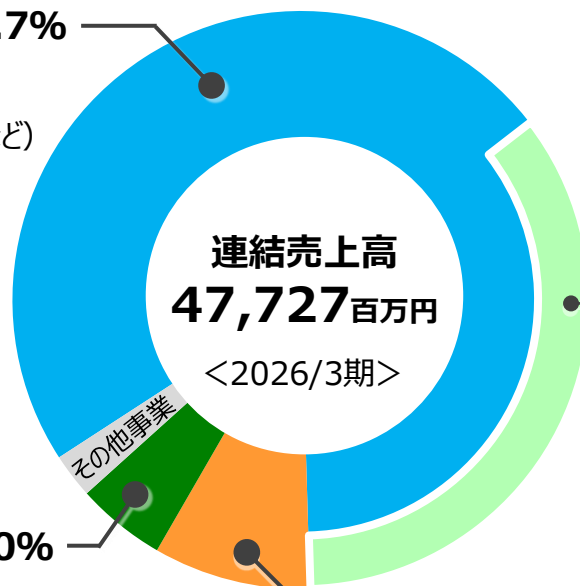
会社概要

商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創業	1913（大正2）年5月1日
設立	1918（大正7）年6月26日
従業員数	631名（連結） <2026年3月31日現在>



化成品事業 39,956百万円 / 83.7%

- リン系製品
 - リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
 - リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、消臭剤など）



▶ 半導体向け高純度リン酸の製造体制

うち、高純度リン酸
売上高 16,796百万円 / 35.2%
〔日本（大阪工場）と台湾連結子会社の合計〕

- ・ 半導体向け高純度リン酸（エッチング液）では、グローバルトップシェア

電子材料事業 2,395百万円 / 5.0%

- 化合物半導体向け高純度無機素材（ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

機械事業 4,197百万円 / 8.8%

- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

2. 2026年3月期実績及び2027年3月期見通し

2026年3月期 決算概要

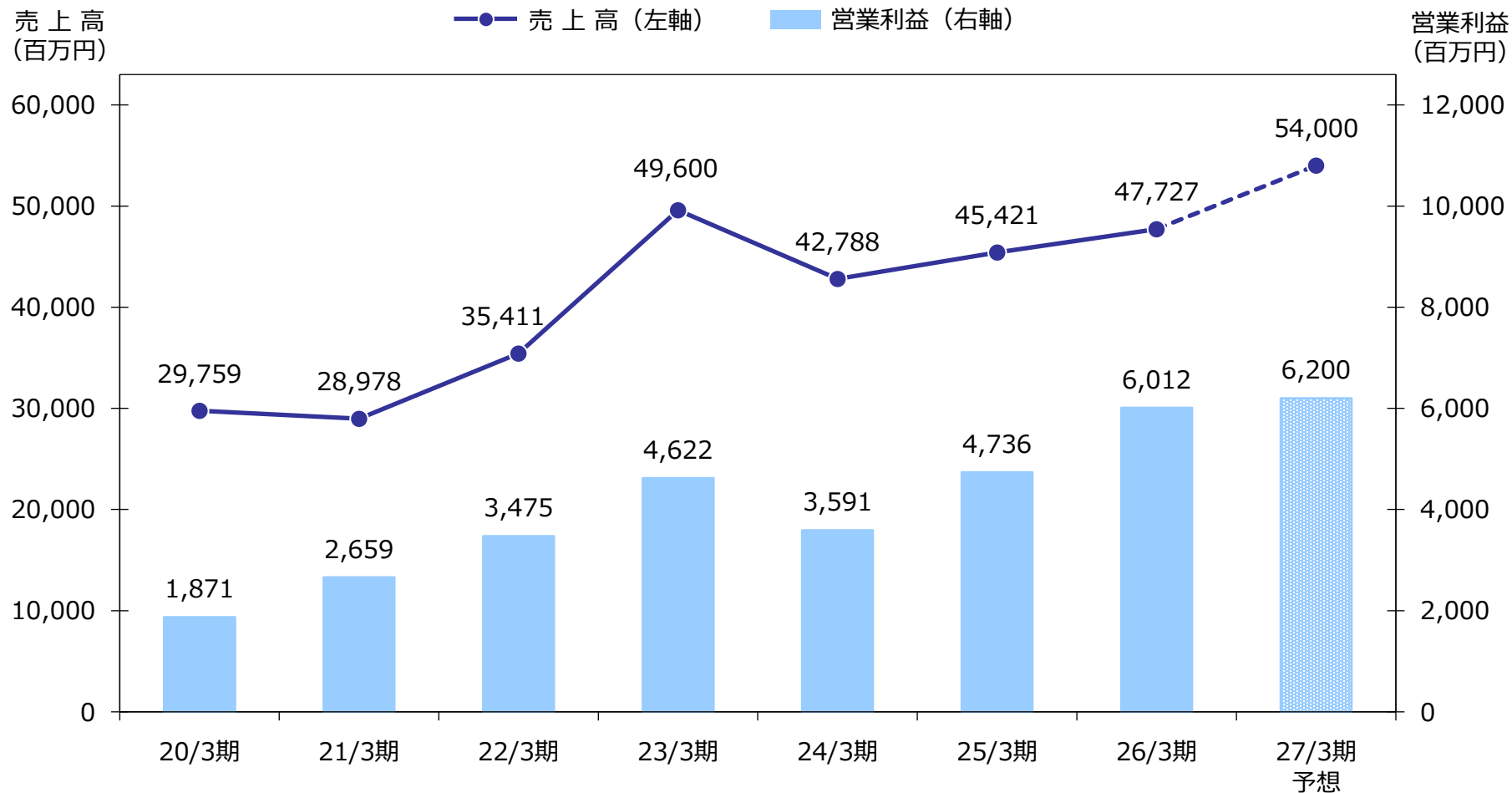
- 売上高は、化成品事業、電子材料事業で増収、機械事業、その他の事業で減収となり、全体では5.1%増収。
- 営業利益は、半導体関連向け製品が海外および化合物半導体向けを軸に引き続き好調に推移したこと等により、26.9%の増益。過去最高益を2期連続で更新。

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期	増減	前年同期比	業績予想	増減
売上高	45,421	47,727	2,305	5.1%	47,700	27
営業利益	4,736	6,012	1,276	26.9%	5,800	212
経常利益	4,602	6,191	1,589	34.5%	6,000	191
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,131	4,359	1,228	39.2%	4,200	159
1株配当金	120円	180円	60円	50.0%	170円	10円
R O E	11.9%	14.6%	2.7%	—	—	—
(減価償却費)	1,794	1,781	△ 13	△ 0.8%		

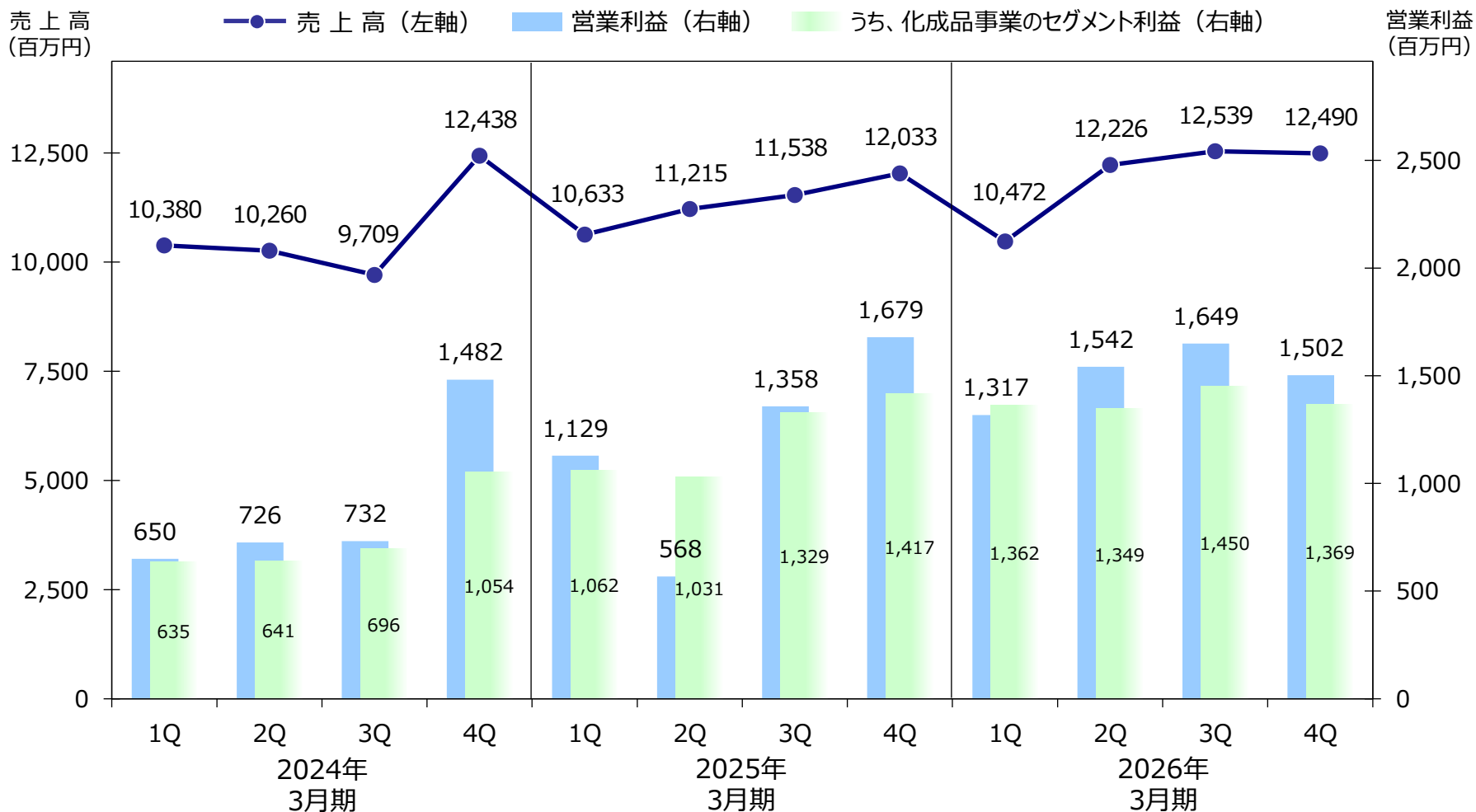
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移



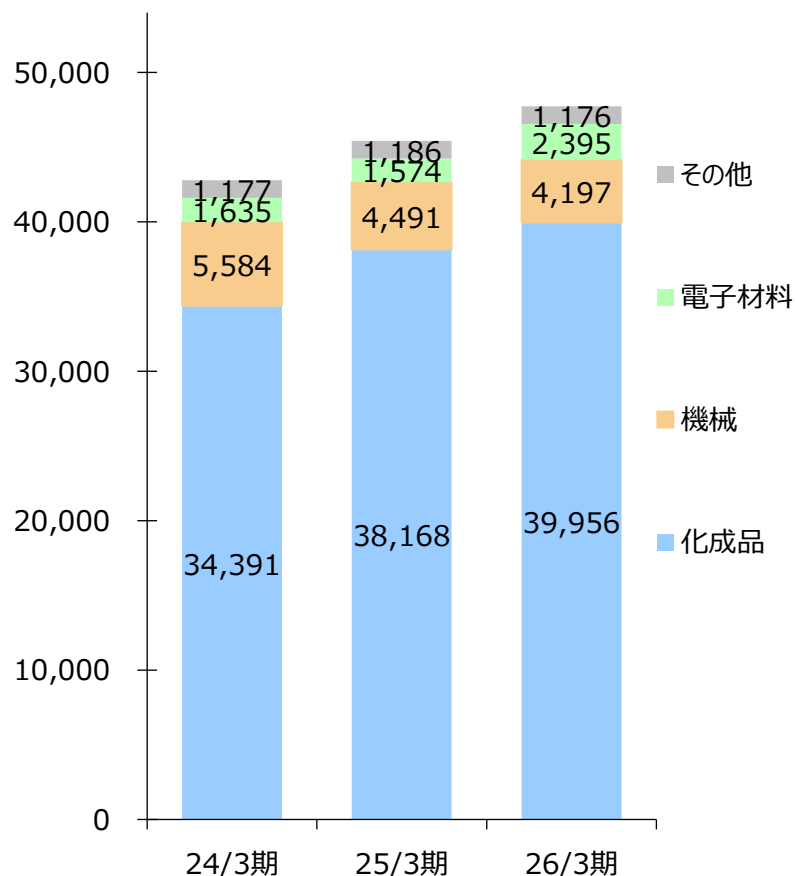
2026年3月期 セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期	増減	前年同期比
化成品	38,168	39,956	1,788	4.7%
機械	4,491	4,197	△ 294	△ 6.5%
電子材料	1,574	2,395	820	52.1%
その他	1,186	1,176	△ 9	△ 0.8%
合計	45,421	47,727	2,305	5.1%

(百万円)



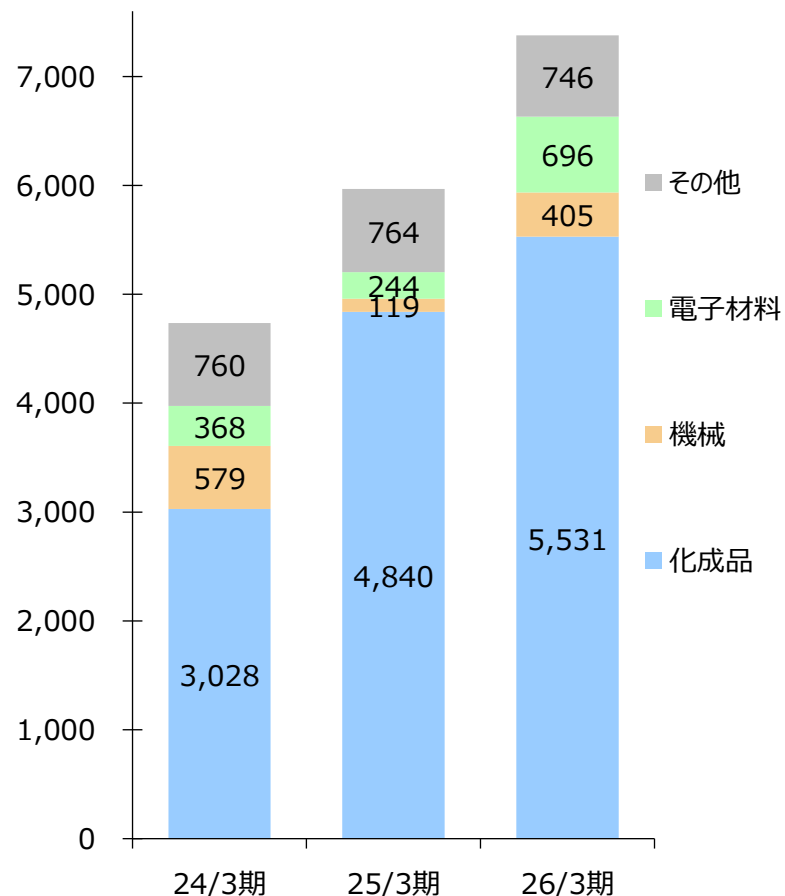
2026年3月期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期	増減	前年同期比
化成品	4,840	5,531	690	14.3%
機械	119	405	286	240.3%
電子材料	244	696	452	185.2%
その他	764	746	△ 17	△ 2.3%
(調整額)	△ 1,232	△ 1,367	△ 134	-
合計	4,736	6,012	1,276	26.9%

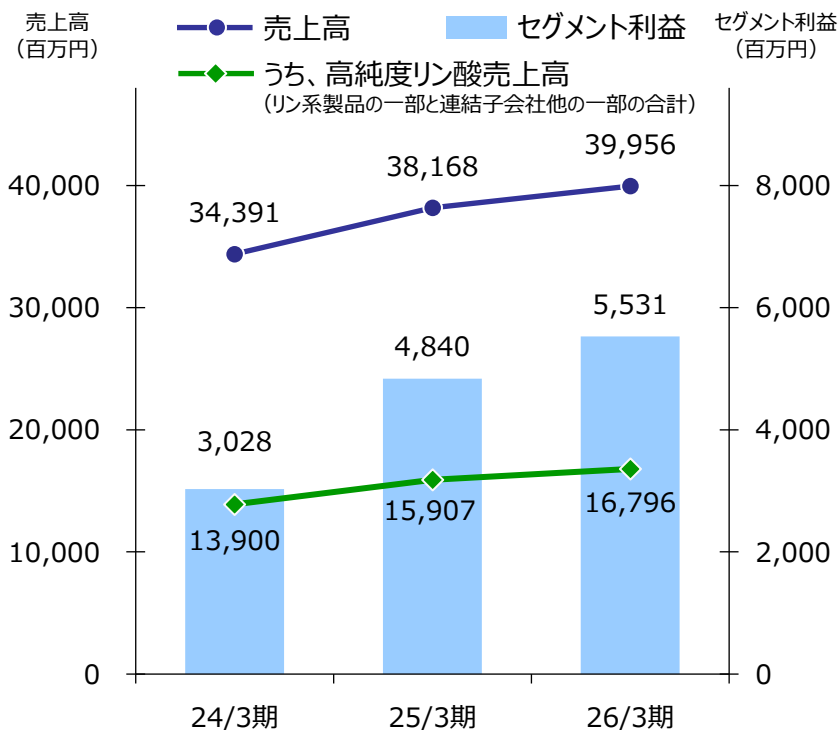
(百万円)



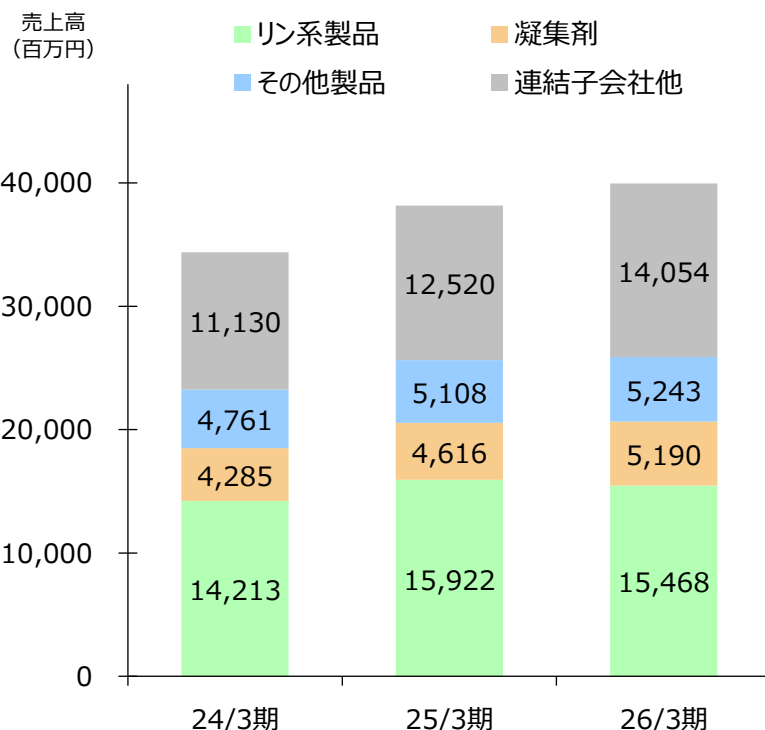
化成品事業

- リン系製品は、一般品向けおよび国内向け高純度品が引き続き低調に推移し減収となったが、半導体向け高純度品において海外向けの堅調な販売が国内の減収分を補い、全体では増収。
- 凝集剤は、電子部品のエッチング用途向けが減収となったものの、上水道向け製品が堅調に推移したことで、全体では増収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料がやや減収となったものの、一部の購入品販売が増収となり、全体では増収。
- 営業利益は、半導体向け高純度品の海外向け販売や上水道向け製品が引き続き堅調に推移したことを主因として、690百万円 (+14.3%) の増益。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

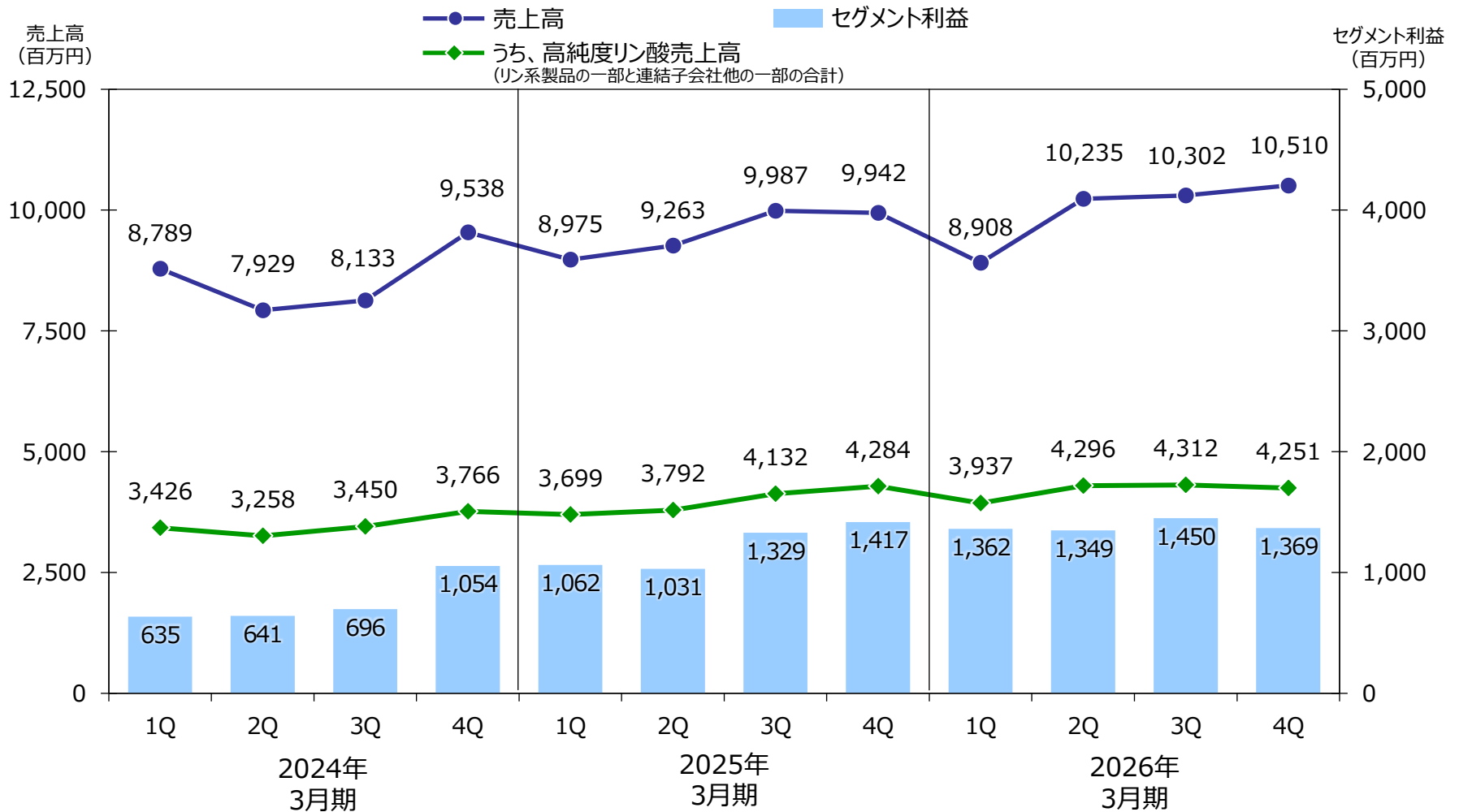


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

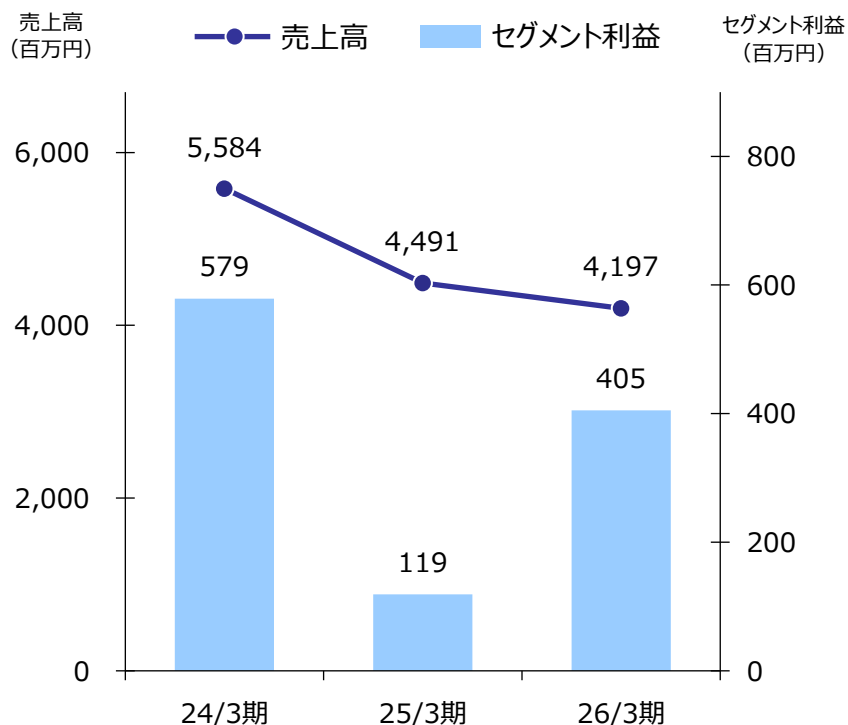
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



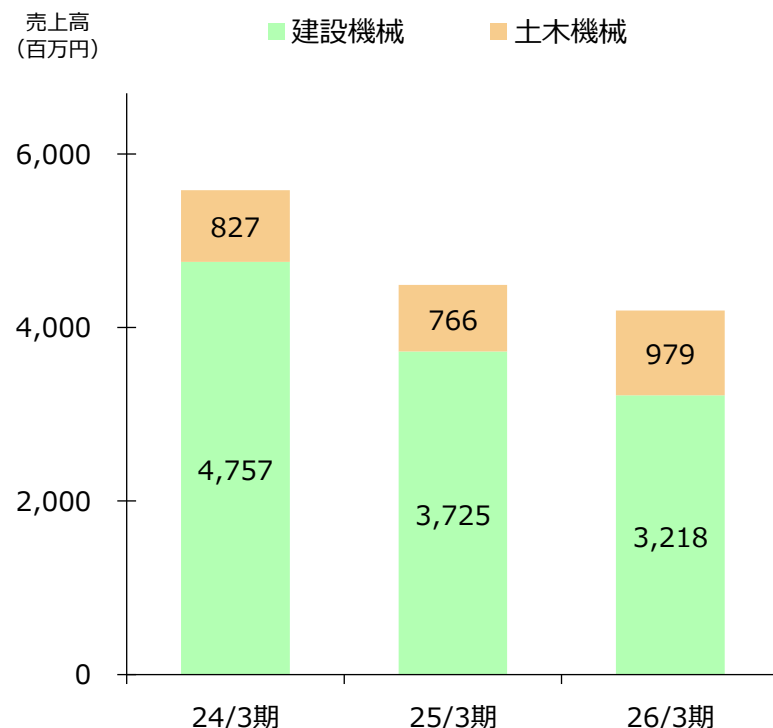
機械事業

- 建設機械は、破碎機などの本体販売、プラント販売が低調に推移し減収となり、消耗部品販売、精密機械加工は増収となったものの、全体では減収。
- 土木機械は、下水道関連向け掘進機のレンタル物件が引き続き堅調に推移したことに加え、本体の海外向け販売が伸長し増収となったことで、全体でも増収。
- 営業利益は、前期の棚卸資産評価損が無かったことに加え、土木機械の増収などが寄与し、286百万円（+240.3%）の大幅増益。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

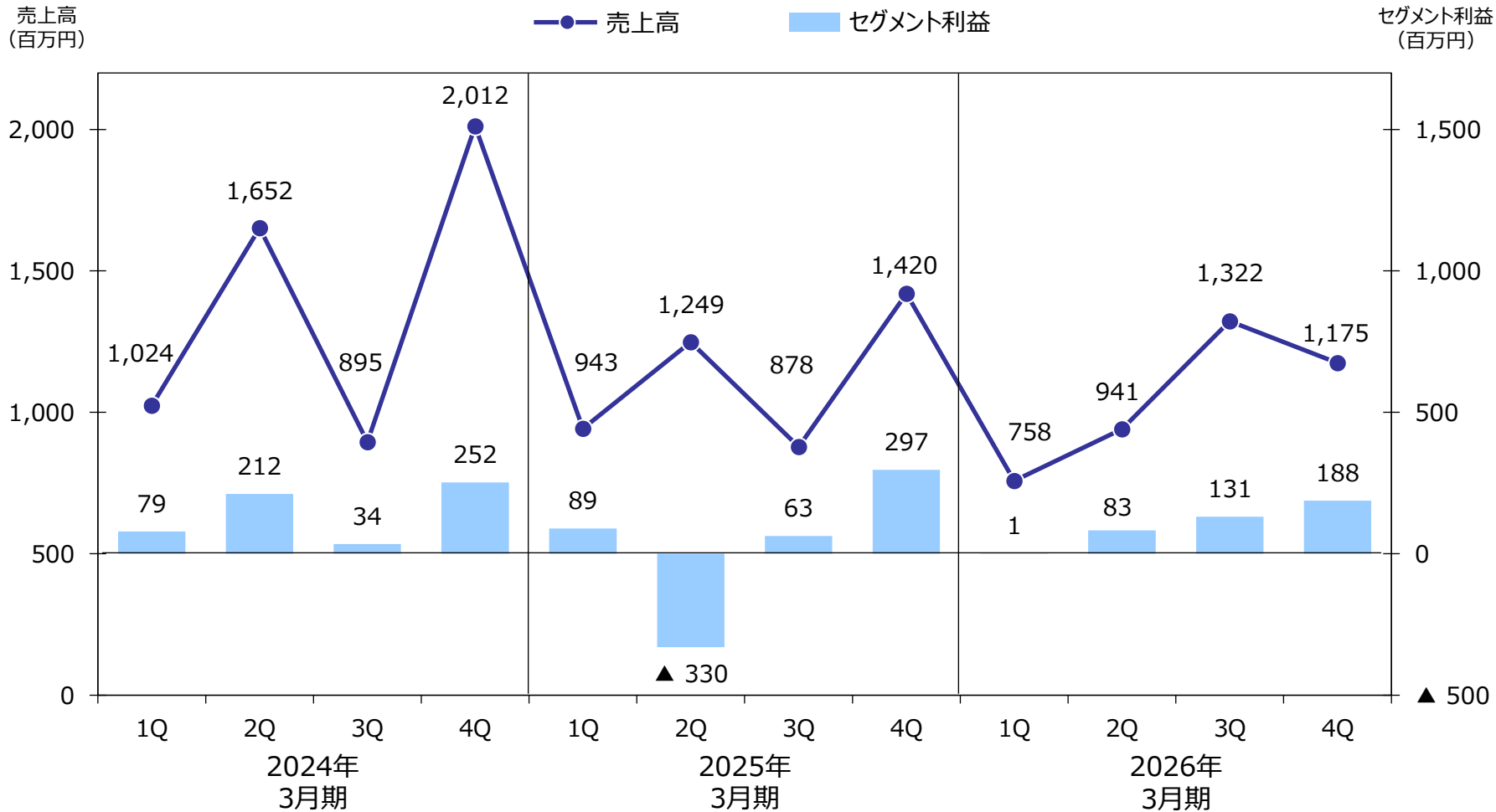


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

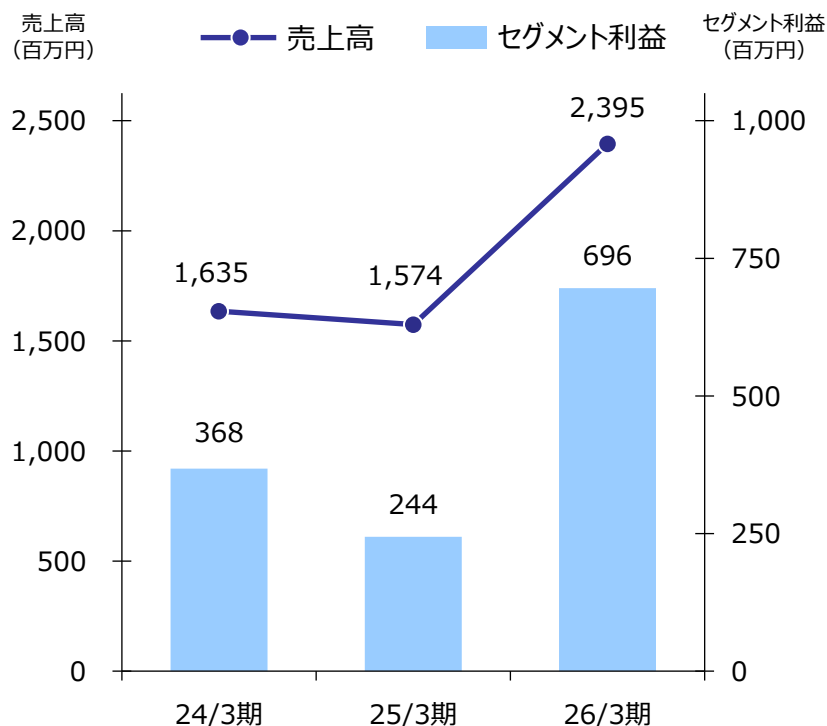
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



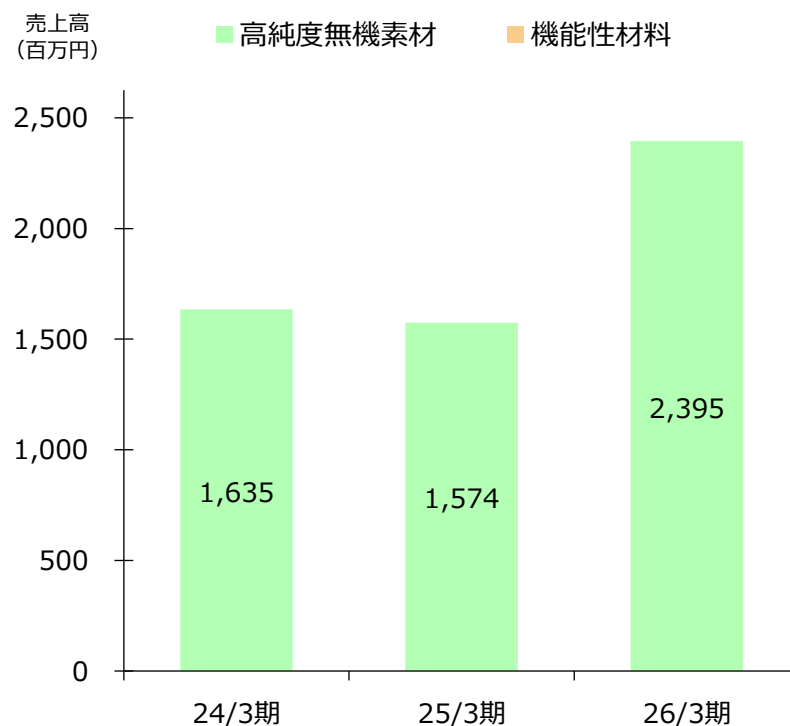
電子材料事業

- 化合物半導体向け高純度無機素材は、化合物半導体市況が堅調に推移し、赤リンおよびインジウムは増収、ガリウムはスポット販売の寄与もあり大きく増収。
- 営業利益は、増収に伴い、452百万円（+185.2%）の大幅増益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

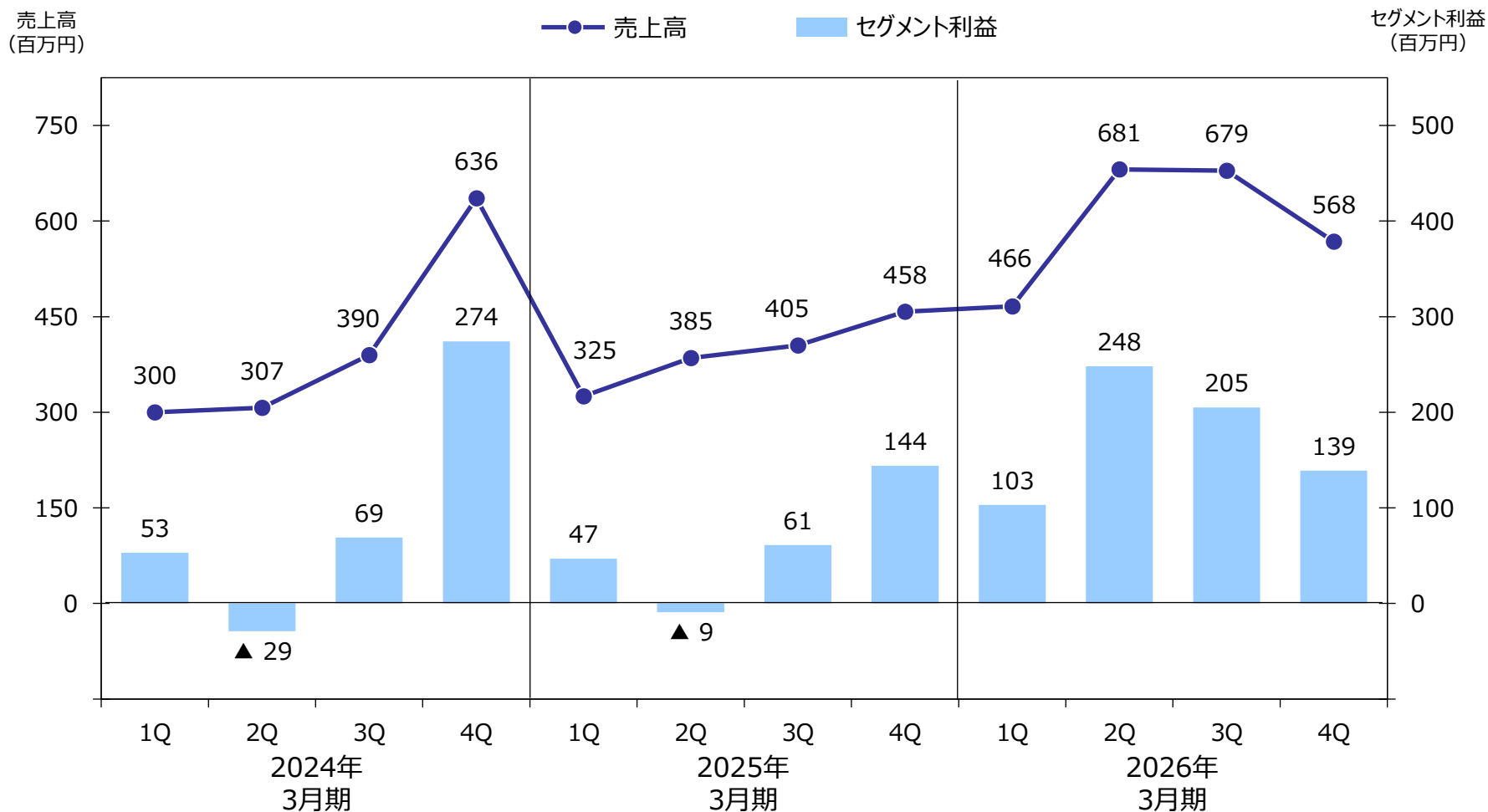


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2025/3期	2026/3期	増減	前年同期比
売上高	45,421	47,727	2,305	5.1%
売上原価	35,788	36,767	978	2.7%
販売費・一般管理費	4,896	4,947	50	1.0%
営業利益	4,736	6,012	1,276	26.9%
営業外収益	242	519	276	114.1%
営業外費用	376	340	△ 36	△ 9.6%
経常利益	4,602	6,191	1,589	34.5%
特別利益	34	—	△ 34	—
特別損失	26	0	△ 25	△ 96.9%
税金等調整前当期純利益	4,609	6,190	1,581	34.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,131	4,359	1,228	39.2%
(減価償却費)	1,794	1,781	△ 13	△ 0.8%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2025/3月末	2026/3月末	増減
流動資産	23,581	24,646	1,064
現金及び預金	5,054	4,823	△ 231
受取手形、売掛金、電子記録債権	11,665	11,853	187
棚卸資産 ※	6,518	7,634	1,116
固定資産	22,257	25,327	3,070
有形固定資産	17,828	20,155	2,326
無形固定資産	45	48	3
投資その他の資産	4,382	5,123	740
資産合計	45,838	49,973	4,135
流動負債	11,004	11,202	197
支払手形及び買掛金	3,441	3,686	244
短期借入金	4,342	3,814	△ 528
固定負債	6,956	6,930	△ 25
長期借入金	3,996	3,693	△ 303
退職給付に係る負債	2,549	2,566	17
純資産合計	27,877	31,840	3,963
株主資本	26,088	29,406	3,317
その他の包括利益累計額	1,789	2,434	645
<自己資本比率>	60.8%	63.7%	2.9%

※ 棚卸資産 = 商品及び製品 + 仕掛品 + 原材料及び貯蔵品

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2025/3期	2026/3期	増減
営業キャッシュ・フロー	5,038	6,149	1,111
税金等調整前当期純利益	4,609	6,190	1,581
減価償却費	1,794	1,781	△ 13
売上債権の増減額（△は増加）	655	△ 104	△ 759
棚卸資産の増減額（△は増加）	38	△ 1,027	△ 1,065
仕入債務の増減額（△は減少）	△ 896	231	1,127
法人税等の支払額	△ 904	△ 1,376	△ 472
投資キャッシュ・フロー	△ 1,829	△ 4,485	△ 2,656
有形固定資産の取得による支出	△ 1,872	△ 4,373	△ 2,501
財務キャッシュ・フロー	△ 1,641	△ 1,960	△ 319
借入金の純増減額	△ 629	△ 860	△ 231
現金及び現金同等物 期中増減額	1,649	△ 231	△ 1,880
現金及び現金同等物 期末残高	5,054	4,823	△ 231

2027年3月期の業績予想

- 化成品事業は、半導体向け高純度リン酸が引き続き海外を中心に堅調に推移し、国内も回復傾向にあると想定されるため、増収増益を見込む。
- 機械事業は、下水道関連向け掘進機は前期並みと見込むが、建設機械は本体販売およびプラント販売は回復が見込まれるため、増収増益を見込む。
- 電子材料事業は、引き続き化合物半導体市況が堅調に推移する見込みで、前期のガリウムのスポット販売は剥落するものの若干の増収、利益は前期並みを見込む。
- 当期純利益は、下期に特損計上見込（固定資産処分損1億円強）により若干の減益を見込む。

(単位：百万円)

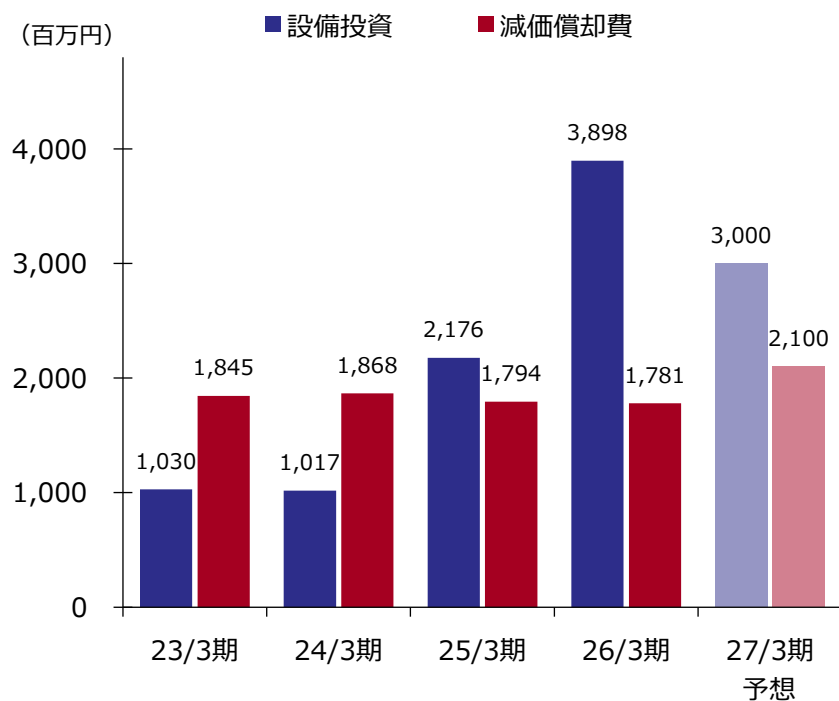
	2026/3期	2027/3期予想	増減	前年同期比
売上高	47,727	54,000	6,272	13.1%
化成品事業	39,956	45,000	5,043	12.6%
機械事業	4,197	5,300	1,102	26.3%
電子材料事業	2,395	2,500	104	4.4%
その他の事業	1,176	1,200	23	2.0%
営業利益	6,012	6,200	187	3.1%
化成品事業	5,531	5,800	268	4.9%
機械事業	405	500	94	23.3%
電子材料事業	696	700	3	0.5%
その他の事業	746	700	△ 46	△ 6.2%
全社費用など	△ 1,367	△ 1,500	△ 132	—
経常利益	6,191	6,300	108	1.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,359	4,300	△ 59	△ 1.4%
1株配当金	36円	36円	0円	—
想定為替レート（1ドル）		155円		

※2026年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割実施。2026年3月期の1株当たり配当金は当該株式分割の影響を遡及的に反映して表示。

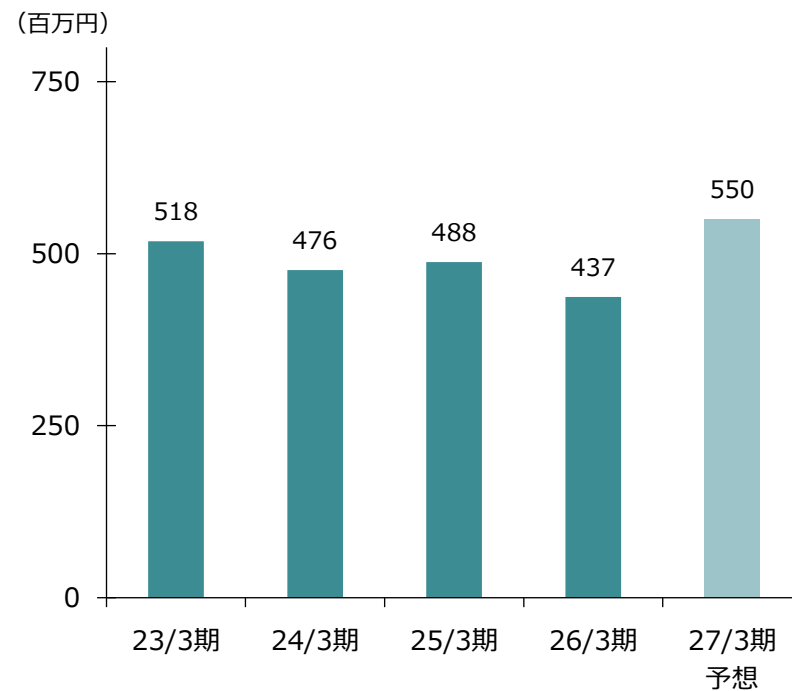
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、2026年3月期に台湾子会社の半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を実施済み。2027年3月期は化成品事業・電子材料事業を中心に更新・増強投資を実施予定。
- 研究開発費は、主に開発センターにおける研究開発活動に係る費用。

設備投資・減価償却費



研究開発費



株主還元方針

- 株主への利益還元を重視しつつも、業績の推移を勘案した財務体質改善および将来の設備投資や事業展開の原資としての内部留保の調和を総合的に検討し決定する。
- 安定配当を堅持しつつ配当性向の更なる向上を目指す。
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応として、

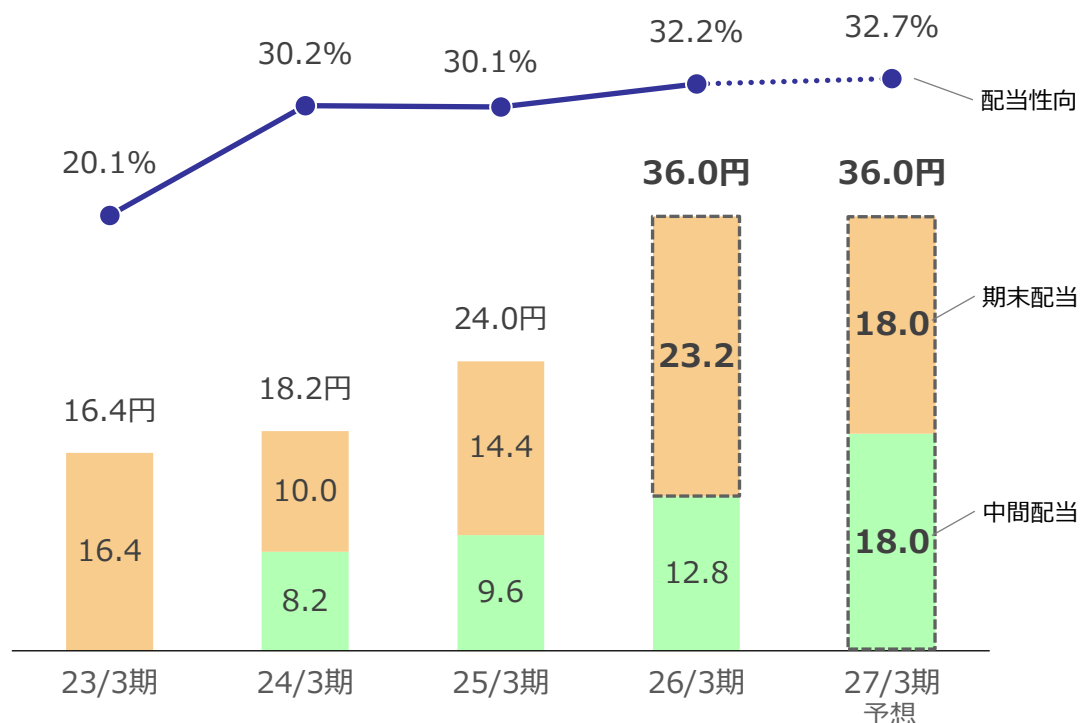
「配当性向30%以上、ROE10%以上」 を目標に設定。

2026年3月期

- 期末配当は、直近予想の1株当たり21.2円から2円増配の23.2円を予定
- 中間配当12.8円と合わせ、年間配当は36円を予定

2027年3月期

- 年間配当36円（中間配当18円、期末配当18円）を予定



※2026年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割実施。2026年3月期以前の1株当たり配当金は当該株式分割の影響を遡及的に反映して表示。

3. 中期経営計画2026の進捗状況

10年長期ビジョン「Rasa Vision 2033」 基本方針

企業価値の向上と持続的成長の追求

1 事業ポートフォリオの最適化

- コア事業の収益力強化と成長事業の拡大
- 資本効率性を意識したROIC経営
- 新たな市場機会や成長分野への取組み強化

2 新規事業の創出

- 顧客ニーズに基づく付加価値の高い新製品開発
- 新たな軸となる事業の育成
- 研究開発の強化

3 人材戦略への注力

- 社内人材育成の強化
- ダイバーシティ&インクルージョン促進と採用力強化

サステナブルな未来の実現

4 気候変動への対応と循環型社会の構築

- 温室効果ガスの排出削減
- 再生可能エネルギーへの移行
- 環境にやさしい製品の拡充

5 安全かつ安定操業の継続

- 事故ゼロの企業へ
- 安定した品質と供給体制の継続
- BCM（事業継続マネジメント）の強化

6 ガバナンスの強化

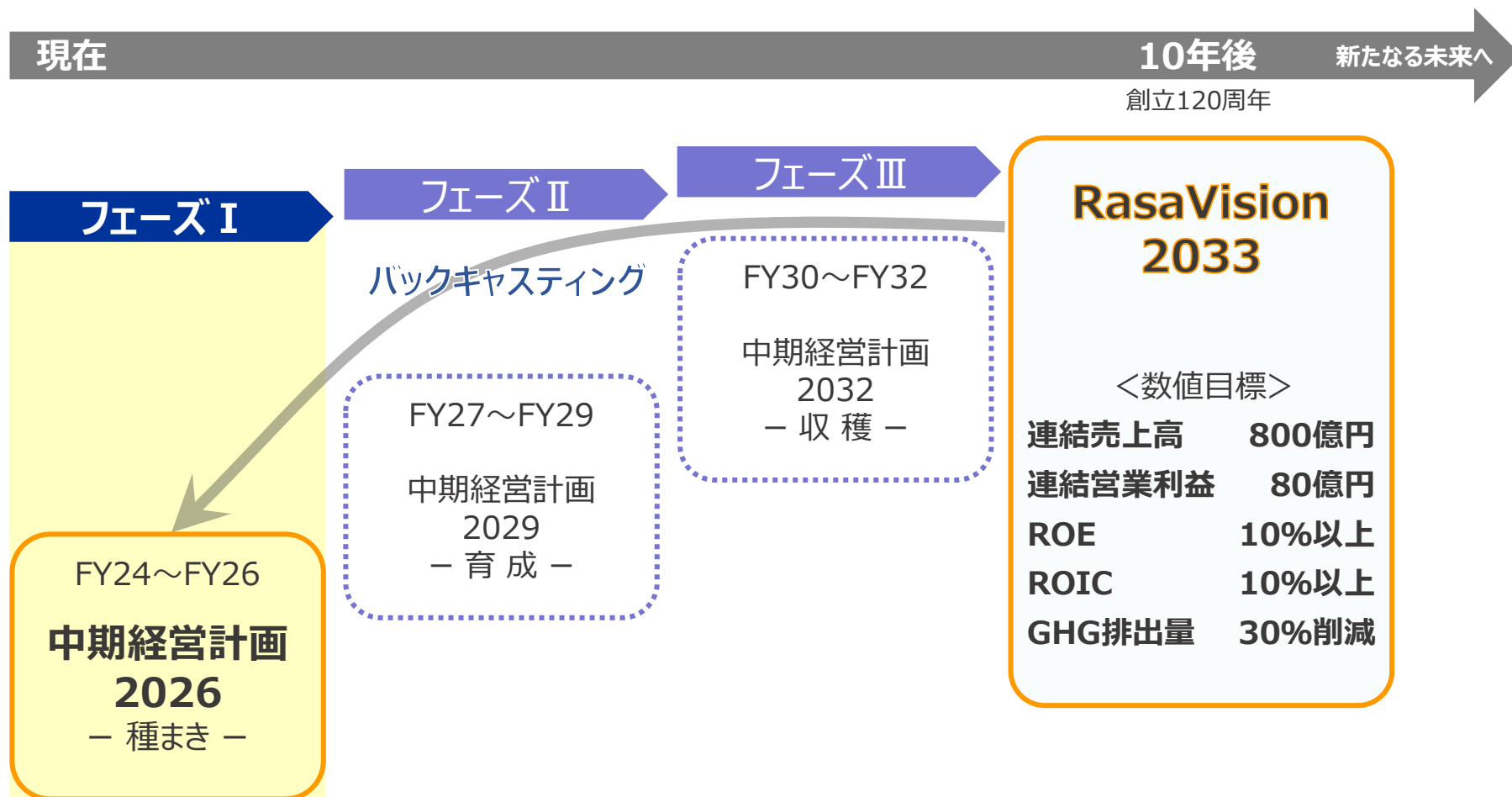
- コンプライアンスの徹底の継続
- リスクマネジメントの強化

10年長期ビジョン「Rasa Vision 2033」 ESG目標

	【マテリアリティ】	【取り組み】	【指標と目標】	【関連するSDGs】
Environment 環境	気候変動への対応	温室効果ガスの削減 森林の保全	CO2排出量(Scope1,2)削減:2033年までに30% 生物多様性の保全:休廃止鉱山の適切な管理	
	循環型社会の構築	資源の有効活用 環境にやさしい製品の拡充	産業廃棄物の適正な処理の実施 関連製品の拡充	
Social 社会	人権の尊重	ダイバーシティ 働きやすい職場（ワークライフバランス） 労働安全衛生	採用数に占める女性社員の率:25%以上 有休取得率:70%以上 労働災害発生件数（休業1日以上）:0件	
	人的資本への投資	人材育成 社内環境整備	階層別教育研修の充実 労使協議会の実施:年2回以上	
Governance ガバナンス	コンプライアンスの徹底	公正な取引（お取引様との共存共栄を目指す） コンプライアンス	社内研修の実施（年1回以上）	
	リスクマネジメントの推進	BCP 情報セキュリティ	事業継続計画（BCP）の再構築 情報セキュリティの強化:重大インシデント発生 0件	

Rasa Vision 2033 数値目標と中期経営計画2026の位置づけ

「RasaVision2033」を実現するための“種まき”の期間



中期経営計画2026の概要

計画名称・期間

中期経営計画2026 2024～2026年度（3年間）

基本方針

経営資源の最適化と収益力強化を推進し、
企業価値向上への基盤強化を図る

数値目標

■ 連結売上高	520億円	■ ROE（自己資本利益率）	10%
■ 連結営業利益	48億円	■ ROIC（投下資本利益率）	9%
		■ 配当性向	30%以上

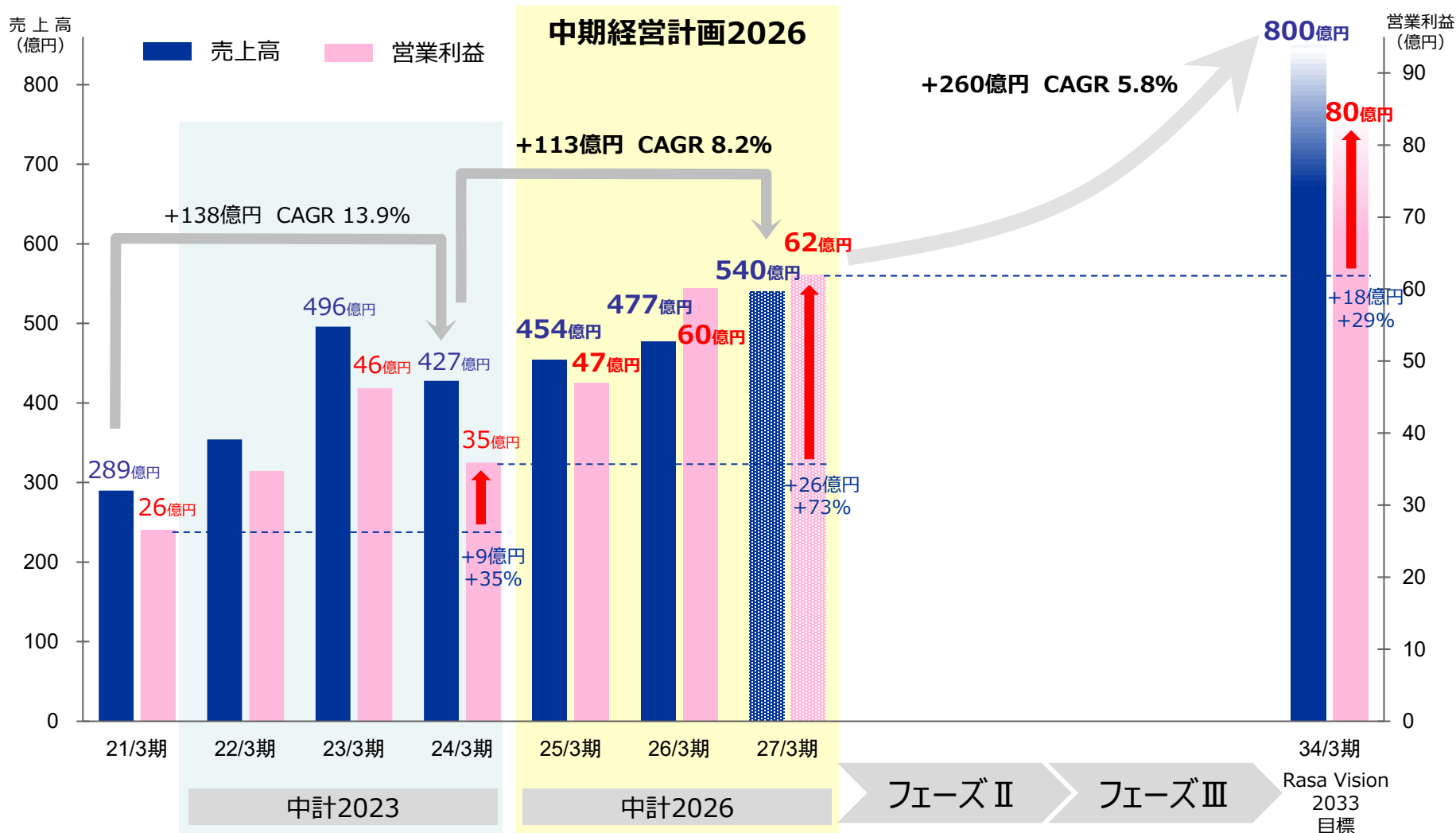
全社方針

- ① 経営資源最適化のための体制構築
- ② 新規事業の創出
- ③ 人材戦略への注力
- ④ 気候変動への対応と循環型社会の構築
- ⑤ 安全かつ安定操業の継続
- ⑥ 経営管理の強化
- ⑦ 株主還元の向上

中期経営計画2026の施策

- ① 経営資源最適化のための体制構築
 - ✓ コア事業の収益力強化と成長事業の拡大
 - ✓ ROIC管理の導入
 - ✓ 新たな市場機会や成長分野への取り組み強化
 - ✓ DXの推進
- ② 新規事業の創出
 - ✓ 研究開発の強化
 - ✓ 研究開発環境の整備
 - ✓ エンジニアリングチェーンの強化
- ③ 人材戦略への注力
 - ✓ 人材育成環境の整備
 - ✓ ナレッジマネジメントの推進
 - ✓ 育成プログラムの見直しと強化
- ④ 気候変動への対応と循環型社会の構築
 - ✓ 温室効果ガスの排出削減
 - ✓ 再生可能エネルギーへの移行
 - ✓ 環境にやさしい製品の拡充
- ⑤ 安全かつ安定操業の継続
 - ✓ 安全衛生管理の強化
 - ✓ リスクアセスメントに基づいたBCPの見直し
- ⑥ 経営管理の強化
 - ✓ コンプライアンスの徹底の継続
 - ✓ リスクマネジメント体制の見直し
- ⑦ 株主還元の向上
 - ✓ 業績に応じた株主還元の実施

中期経営計画2026の数値目標 1 / 2



中期経営計画2026の数値目標 2 / 2

(単位：百万円)

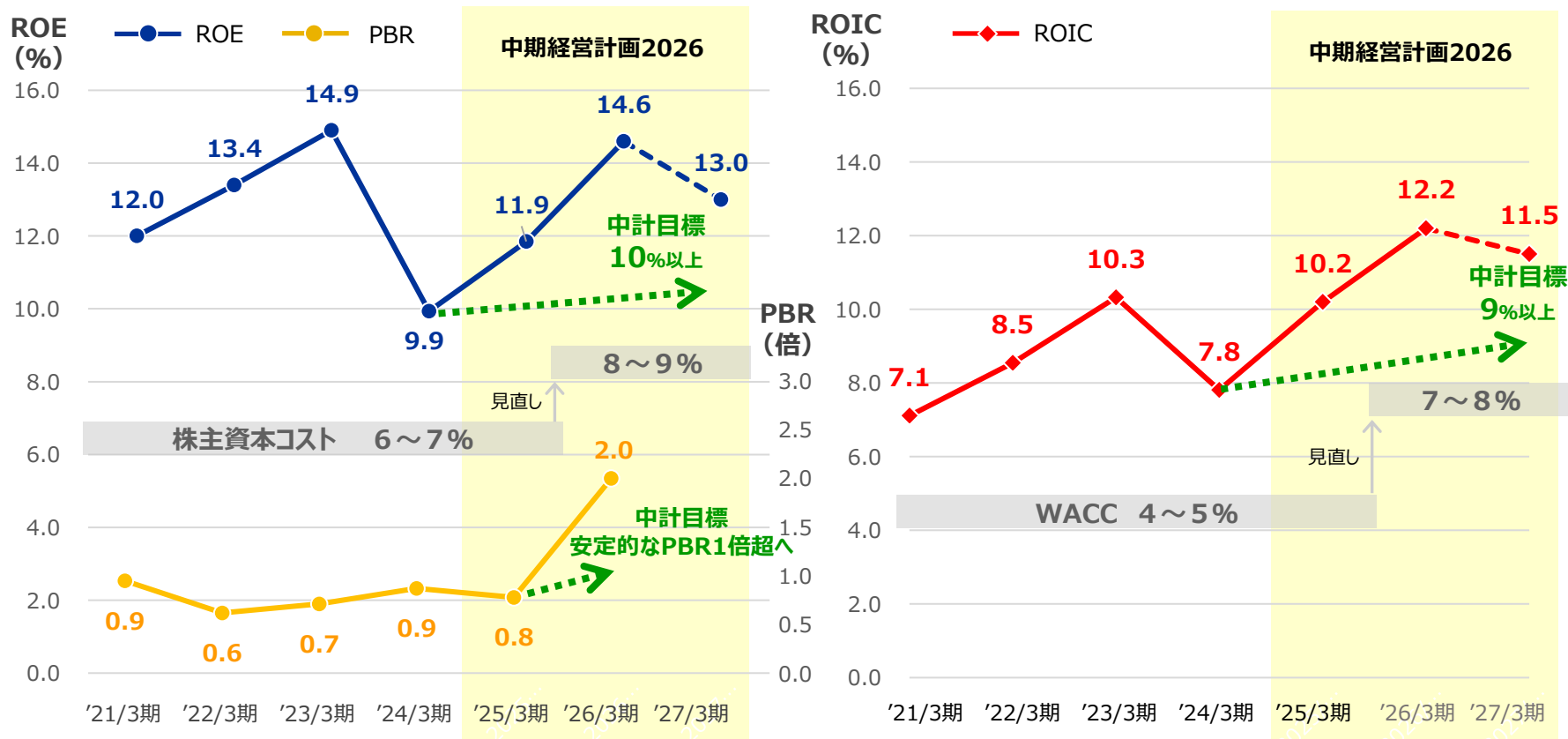
	2027/3期 当初計画(①)	2025/3期 実績	2026/3期 実績	2027/3期 予想(②)	当初計画比増減 (②-①)	増減率
売上高	52,000	45,421	47,727	54,000	2,000	3.8%
化成品事業	42,400	38,168	39,956	45,000	2,600	6.1%
機械事業	6,000	4,491	4,197	5,300	△ 700	△ 11.7%
電子材料事業	2,400	1,574	2,395	2,500	100	4.2%
その他の事業	1,200	1,186	1,176	1,200	0	—
営業利益	4,800	4,736	6,012	6,200	1,400	29.2%
化成品事業	4,350	4,840	5,531	5,800	1,450	33.3%
機械事業	650	119	405	500	△ 150	△ 23.1%
電子材料事業	400	244	696	700	300	75.0%
その他の事業	800	764	746	700	△ 100	△ 12.5%
全社費用など	△ 1,400	△ 1,232	△ 1,367	△ 1,500	△ 100	—
経常利益	4,800	4,602	6,191	6,300	1,500	31.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,200	3,131	4,359	4,300	1,100	34.4%
ROE	10.8%	11.9%	14.6%	13.0%	2.2%	—
ROIC	9.3%	10.2%	12.2%	11.5%	2.2%	—
純資産	30,000	27,877	31,840	34,500	4,500	15.0%

- 1年目（2025/3期）は、半導体関連の市況回復等により計画比で増収増益。
- 2年目（2026/3期）は、1年目に引き続き、半導体関連市況が堅調に推移し、計画比で増収増益となり、利益面では最終年度目標も達成。
- 最終年度（2027/3期）予想は、半導体関連市況が堅調に推移すると想定しており、前期比で増収を見込むも、減価償却費などのコスト増もあり、利益は若干の増益を見込む。当初計画比では売上高は3.8%の増収、利益では30%前後の増益となる見込み。
- ROE、ROICは3年連続で目標値を上回る見込み。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 1/2

現状認識（太字：2026/6/3 アップデート）

- 株主資本コストの水準は、CAPMにより算出し **8～9%** 程度、WACC（加重平均資本コスト）はCAPMによる株主資本コストと負債コストから、**7～8%** 程度と認識。
- ROEとROICは、中期経営計画2026を達成。
- 低迷していたPBRは、株主資本コストを上回るROEの達成と、半導体材料等の成長加速を織り込んだ市場の期待を背景に、大幅に改善したと評価。



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 2 / 2

取組方針

- 長期ビジョン「Rasa Vision 2033」を策定し、それ実現するための“種まき”の期間（フェーズⅠ）と位置づける中期経営計画2026の取組みを進め、資本コストや株価を意識した経営を本格化させる。
- 収益力と資本効率性の向上、非財務施策への取組みにより、企業価値の向上を目指す。

具体策と進捗状況（太字：2026/6/3 アップデート）

		< 具体策 >	< 進捗状況 >
P B R	ROE	<ul style="list-style-type: none"> ✓ キャッシュアロケーションに基づいた適切な経営資源の配分 ✓ 業績と財務状況、事業展開の原資とのバランスを勘案した株主還元の実施 ✓ 配当性向30%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2026年3月期で配当性向32.2% ✓ 中期経営計画2026の株主還元方針に従い、配当性向30%以上を目標とした安定配当を堅持しつつ配当性向の更なる向上を目指す
	ROE	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ROE10%を目標とした株主資本コストを上回る水準の維持 ✓ ROIC9%を目標としたROIC管理の強化 ✓ コア事業の収益力強化と成長事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2026年3月期でROE14.6%、ROIC12.2%と目標達成 ✓ 台湾子会社で半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を実施（投資額 約30億円、台湾の生産能力4割アップ、2026年4月稼働）し、持続的な成長を目指す
	PER	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長期ビジョンを目指した中期経営計画の着実な実行 ✓ 新規事業、成長事業への投資強化による成長戦略の実施 ✓ マテリアリティ（重要課題）への取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2025年にRAMM開発センターを改編し、開発センターを新たに設置 従来は各事業部で分かれていた開発担当を纏め、全社横断的な開発体制を構築し、より市場のニーズをとらえた研究開発を目指す 気候変動への対応 <ul style="list-style-type: none"> ✓ TCFD提言に基づく情報開示 ✓ CDP2025気候変動質問書において「B」スコア評価 人権の尊重 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ダイバーシティ・ワークライフバランスの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・女性採用比率向上 ・有給休暇取得率向上 ・男性育児休暇取得率向上 ・女性社員及び女性管理職比率向上

重点施策①



<リン酸>

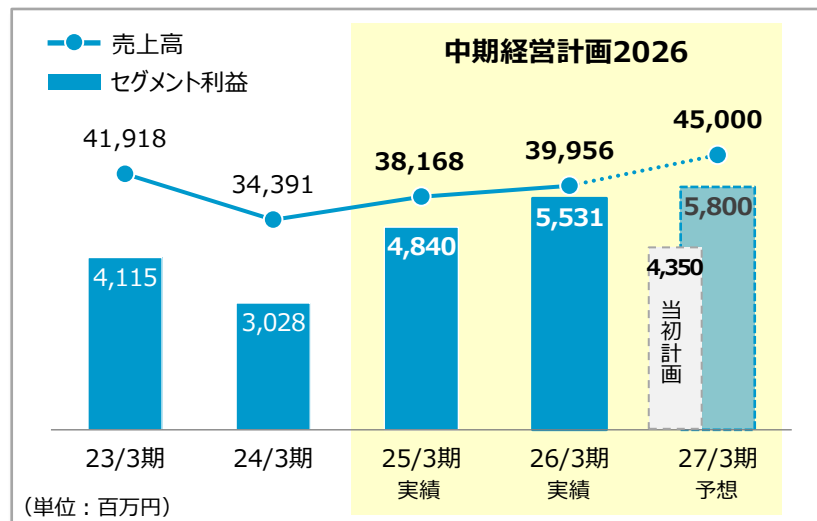


<消臭剤>



<台湾子会社>

化成品事業



■ コア事業の収益力強化

- ✓ 半導体向け高純度リン酸 – 国内外における安定操業と拡販
- ✓ コンデンサー向け原料増産設備の安定操業の整備と省力化

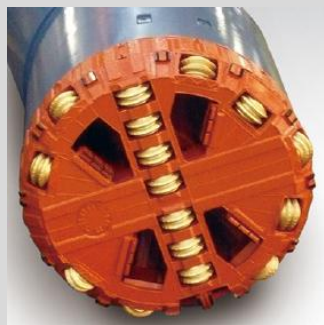
■ 成長事業の拡大

- ✓ 日本・東アジア・北米の新規販売先の獲得（半導体向け高純度リン酸）
- ✓ 韓国合弁会社が北米に半導体向け高純度リン酸の新工場を建設

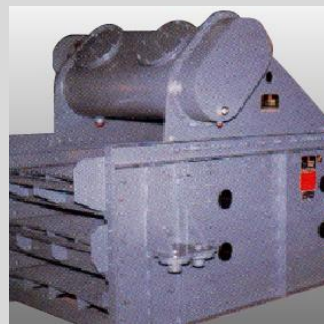
■ 新規事業の創出

- ✓ 高純度リン酸のリサイクル実用化

重点施策②



<掘進機>

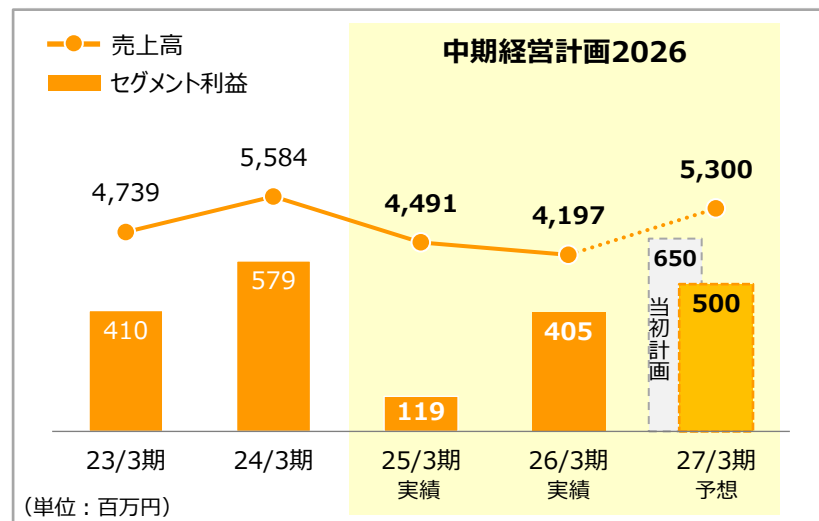


<選別機>



<電子ビーム溶接加工>

機械事業



■ コア事業の収益力強化

- ✓ 建設機械の単体・部品の入替需要に対し、密な営業活動
- ✓ リチウムイオン電池検出装置の開発と拡販

■ 成長事業の拡大

- ✓ 下水道向け掘進機の新規市場開拓（東南アジア）

■ 新規事業の創出

- ✓ 新事業の探索
- ✓ 電子ビーム溶接加工の宇宙産業への取組み

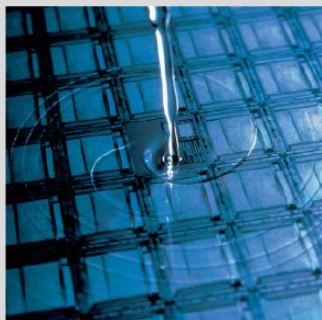
重点施策③



<高純度無機素材>

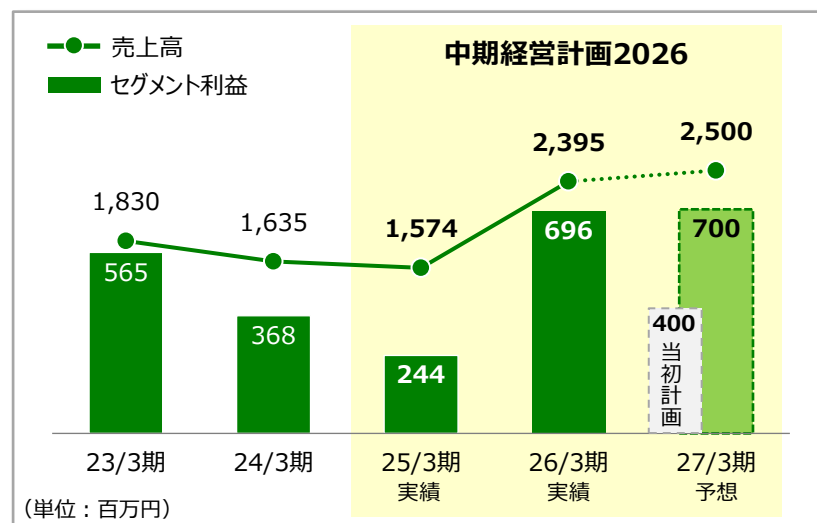


<放射性ヨウ素吸着剤>



<塗布剤>

電子材料事業



■ コア事業の収益力強化

- ✓ 高純度無機素材の品質・コストの競争力を向上し、シェア拡大
- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤 (AgX) の継続的な販売の実現

■ 成長事業の拡大

- ✓ インジウムリン (InP) 需要増加への対応
- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤 (AgX) の海外市場開拓

■ 新規事業の創出

- ✓ 次世代半導体用材料の開発

トピックス① 半導体向け高純度リン酸増産設備の稼働開始（化成品事業）

台湾子会社における生産能力増強設備が稼働開始

台湾連結子会社

会社名 **理盛精密科技股份有限公司**

(Rasa Technology Taiwan Ltd.)

所在地 台中市梧棲區緯二路1號

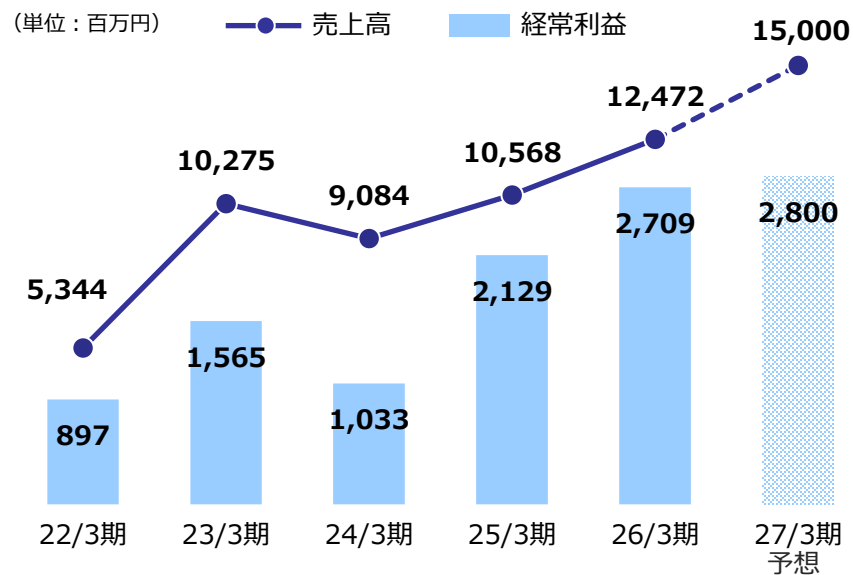
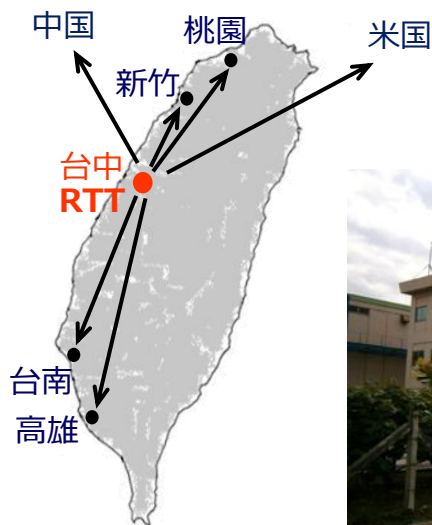
設立 2003年12月17日

設備目的 **半導体向け高純度リン酸増産**

設備概要 **総額約30億円、年間償却費約4億円**

増産効果 **台湾の生産能力の4割アップ**

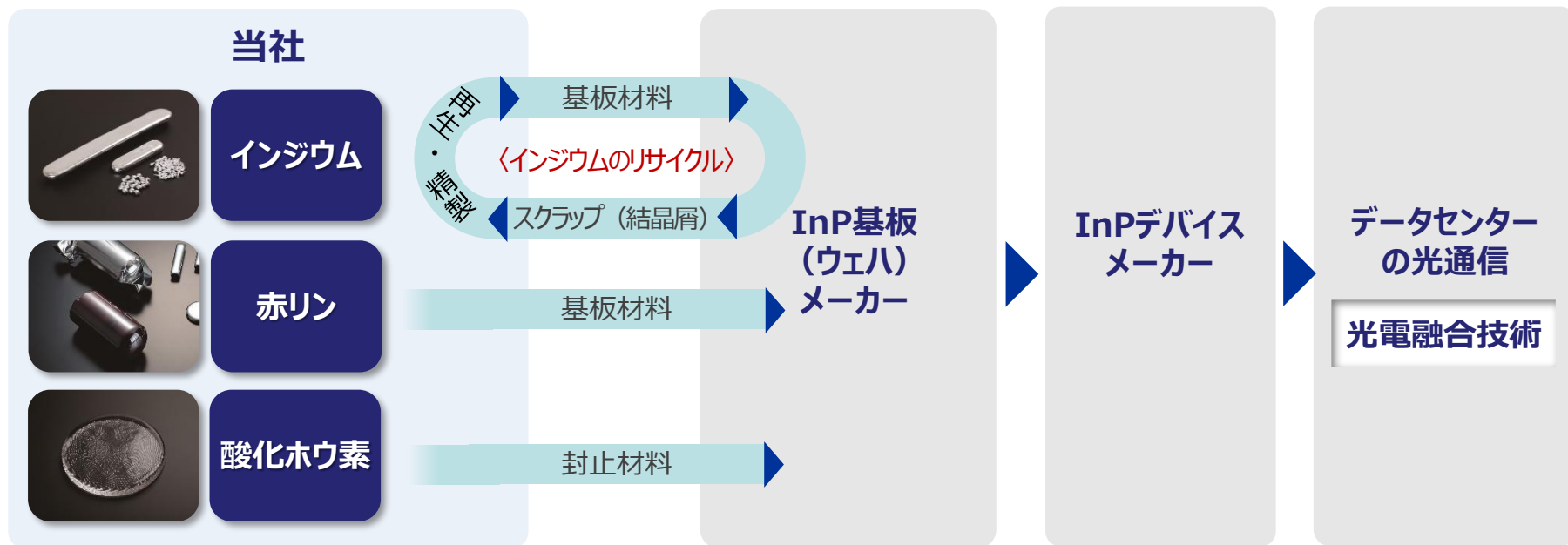
稼働開始月 **2026年4月**（27/3期2Qから売上に寄与）



トピックス② インジウムリン需要の増加（電子材料事業）

データセンターの光通信の受発光素子（光トランシーバー）向け インジウムリン（InP）の需要が増加

- インジウムリン（InP）は、インジウム（In）とリン（P）から成る化合物半導体であり、光通信を支える基幹材料として中長期的な成長が見込まれる。
- 次世代の情報通信基盤技術として開発が進む光電融合技術においても、インジウムリンの採用が期待される。
- 当社は、インジウムリン基板の原料であるインジウム、赤リン、酸化ホウ素を製造するとともに、インジウムのリサイクルに強みを有しており、サプライチェーン上流から循環型供給までを担う。



トピックス③ リチウムイオン電池検出装置の開発 (機械事業)

廃棄物に混入するリチウムイオン電池を検出するシステム (X線とAIを活用)

現在、廃棄物処理施設では、収集されたごみに使用済みリチウムイオン電池製品が混入し、破碎工程で損傷し発火することが原因となる火災事故が多発しており、年々深刻さが増している。

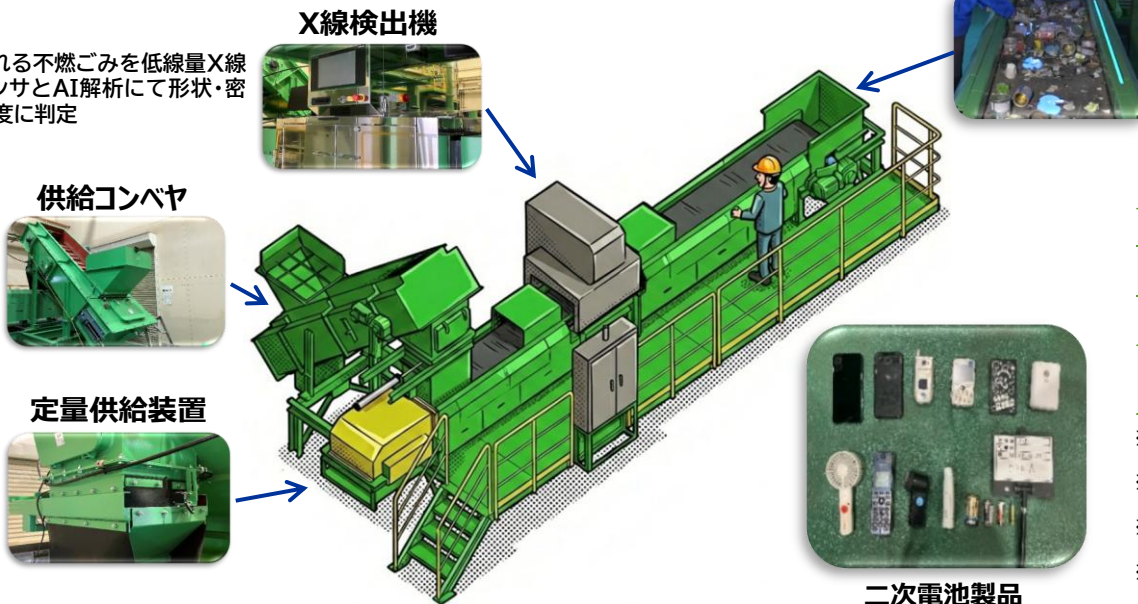
- X線技術とAI解析を活用し、リチウムイオン等を内蔵した二次電池製品を非破壊で高精度に検出
- リサイクル現場での安全性と効率を両立する次世代検出ソリューションを開発

Lithium Analyzer Neo リチウムアナライザーネオ

選別コンベヤ上を流れる不燃ごみを低線量X線で撮像し、高感度センサとAI解析にて形状・密度などの特徴を高精度に判定

投入ホッパへ不燃ごみを投入後、鋼板製コンベヤのかき棧により定量供給装置へ搬送

供給コンベヤより搬送された不燃ごみを定量かつ均一に選別コンベヤへ搬出



選別コンベヤ

全長スカートによりごみのこぼれ防止を施し、コンベヤベルトは難燃重耐油を採用。マッピングによる通知により二次電池製品をピックアップ

性能 ※弊社試験による

処理能力 2500kg/h

検知率^{※1} 96%

誤検知率^{※2} 3%

X線漏えい量 (実効線量) 0.07mSv/3か月
(管理区域基準 1.3mSv/3か月以下)

※1 検知率の定義
《式》検知数÷(検知数+未検知数)×100(%)

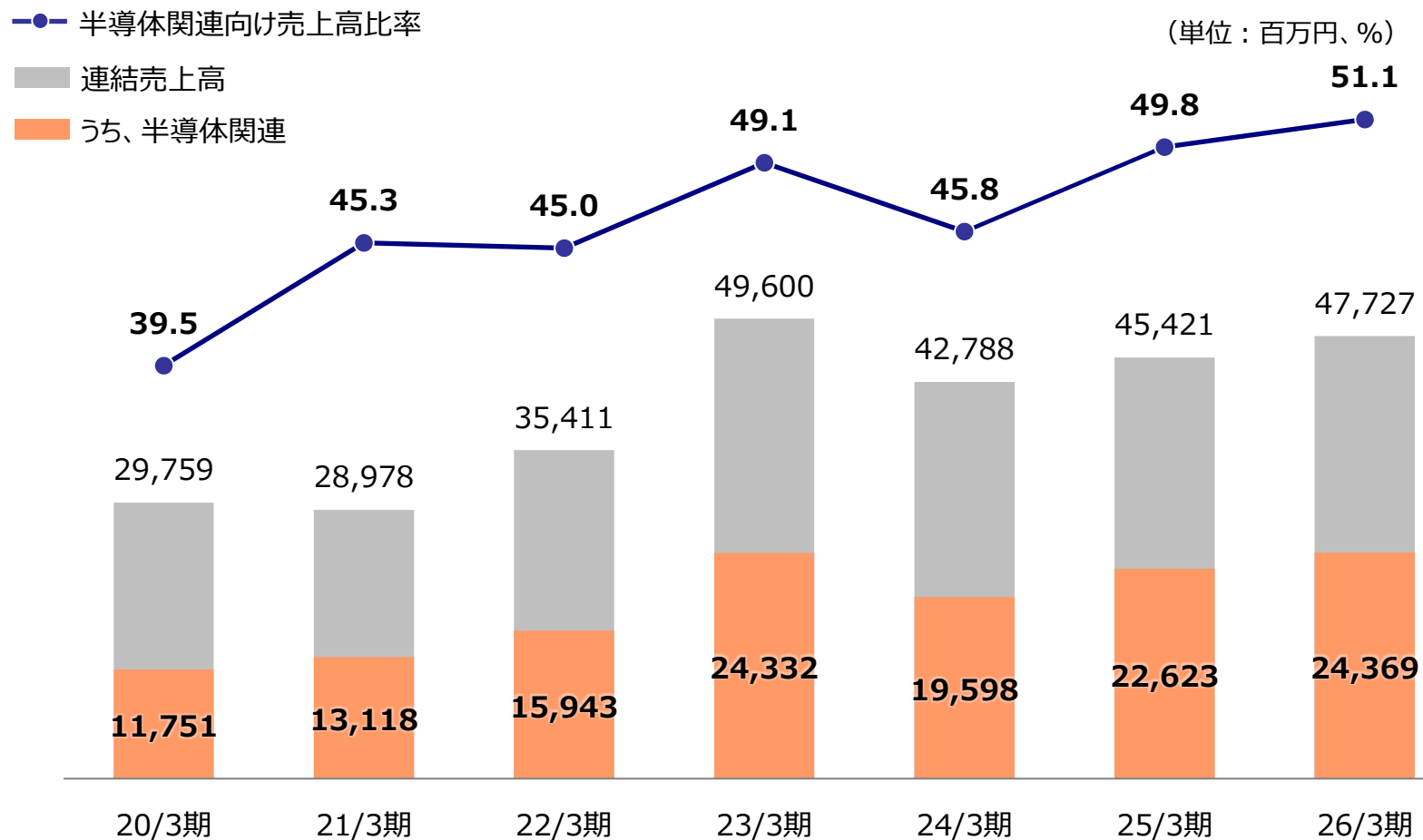
※2 誤検知率の定義
《式》誤検知数÷(検知数+誤検知数)×100(%)

※ 上記 数値は 保証値ではなく参考値でありごみ組成、ごみ質等により変動します

※ 検出する二次電池製品はAI学習したものと未学習の二次電池製品は含みません

二次電池製品

<参考> 半導体関連 (注) 向け売上高

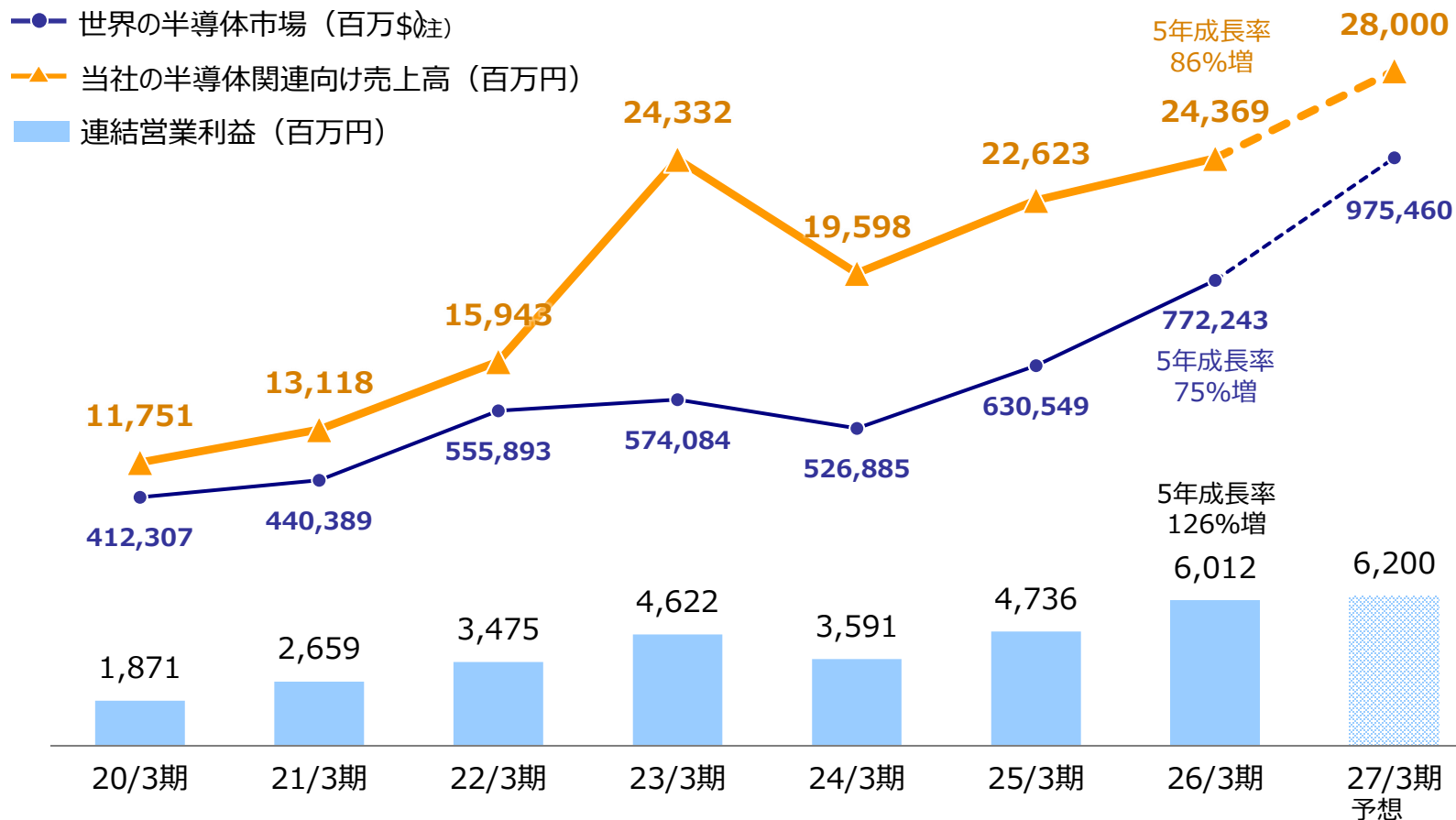


(注) 半導体関連向け売上高は、半導体・電子部品関連向けの販売を集計

(化成品：半導体向け高純度リン酸(日本・台湾)、コンデンサー向け原料、電子部品のエッチング用途向け凝集剤等 + 電子材料：高純度無機素材)

<参考> 世界半導体市場（WSTS）との比較

世界の半導体市場とともに、当社の半導体向けビジネスも拡大



(注) 出所：WSTS 2025年秋季半導体市場予測（暦年ベース）

<参考> 半導体向け高純度リン酸の供給体制

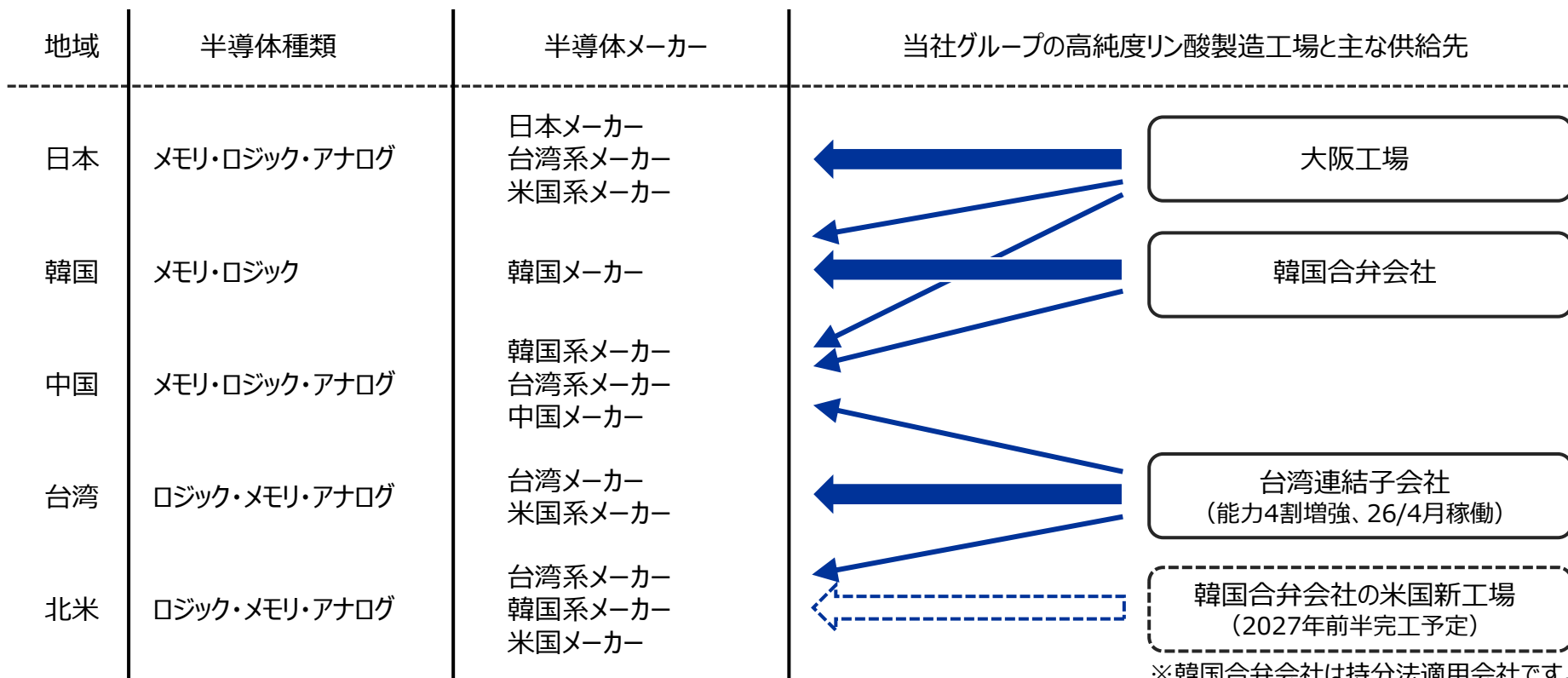
半導体向け高純度リン酸ではグローバルでトップシェア

– 品質面での強みに加えて、日本と台湾と韓国で現地生産・現地販売していることが強み –

2026年4月に台湾子会社増産設備が稼働開始、2027年には米国を加えた4か国生産体制に

半導体向け高純度リン酸（連結売上高の約1/3を占める主力製品）

- ✓ 当社の半導体向け高純度リン酸は、半導体製造（前工程）で、エッチング（ウェットエッチング）に使用される薬液。
- ✓ ロジック半導体やメモリ半導体（NAND・DRAM）などの製造に必要な材料。



※韓国合弁会社は持分法適用会社です。

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解下さい。

－IRに関する問い合わせ窓口－
ラサ工業株式会社 経理部
03-3258-1835